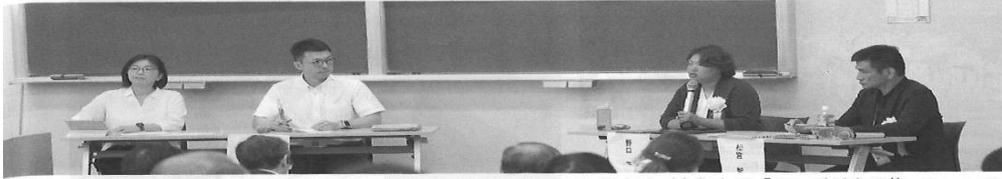


# 日本武道学会第56回大会

本部企画  
シンポジウム

## 多様「性」と武道を考える



左から司会の小田氏と松井氏、登壇者の野口氏と松宮氏（本部企画「シンポジウム」）



日本武道学会第56回大会は9月4・5日、大阪府相原市の大阪教育大学で国際武道・格闘技科学学会（IMACSSS、以下アイマックス）と共催で開催された。

初日にはアイマックスのW. J. シナルスキー会長による「ヨーロッパの武道研究事業」と題した基調講演と「多様「性」と武道」のシンポジウムが実施された。2日目には本年度総会と剣道、弓道・なぎなた、少林寺拳法、障害者武道と空手道の各専門分科会が行われた。弓道となぎなたは合同、少林寺拳法は初の開催となった。

また、2日間を通して人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表の4分野に分かれて実施された一般研究発表に加えて、国際セッションがオンデマンド形式で配信された。

初日（9月4日）の午後1時から大阪教育大学の岡本幾子学長が挨拶を述べて、基調講演に移った。

### ▼障害者武道

松井完太郎氏（国際武道大学）と大橋正康氏（障害者武道協会）が「新たな武道稽古手法…コロナ禍で総ての人々に行動制限（障害）があったときに得た新たな武道稽古手法の価値」をテーマにシンポジウムを行った。シンポジウムではオンラインで



障害者武道専門分科会

の稽古法など九つの事例を紹介。オンラインでの代替手段の普及は、障害者の方々に大きな転機をもたらした。また、離島在住者などもオンライン形式の大会に現地から参加できるなど、その恩恵は障害者だけでなく健常者にも大きな影響を及ぼした。オンラインでの稽古法は今後も高度な技術のもと、提供されていくと結論づけた。

### コーディネイト

松井完太郎国際武道大学学長

以下、youtubeよりご覧いただけます。

<https://youtu.be/8MxOmSGYmT0>



（一社）障害者武道協会

053-439-0909



全日本拳法会本部

053-439-0909